①～④ 幼年消防フェスティバル。消防車・救急車の乗車体験や消防服の試着体験、ポンプ車を使用しての消火体験などを行います。
⑤ 水難救助隊の訓練風景。５人１組のチームで、海底の状況調査を行いました
⑥⑦ 釜石消防署で行われている消防訓練風景。⑥ 消火へと向かう隊員
⑦ 現場の情報収集、状況分析を行う指揮隊

―特集―

まちを守るHERO

火事や救急などの緊急時に頼りになるのが、消防隊員。
普段接する機会はあまり多くないかもしれませんが、
消防隊員たちは、いざという時のために、
日頃から訓練や普及活動を行っています。

今回の特集では、私たちの命を守る消防隊員や
地域に必要不可欠な役割を果たしている
まちの消防団員にお話しを聞いてきました。

取材を通して見えてきたのは、
「自分たちのまちは、自分たちの手で守る」ということ。
今回は、まちを守る人たちの想いをお伝えします。

一丸となって災害に立ち向かう

釜石消防署 署長
駒林 博之 さん

私の39年の消防人生の中で印象に残っているのは、東日本大震災、尾崎半島の林野火災の２つです。

東日本大震災の時は、大槌消防署の配属でした。なんとか命は助かり、次の日から救助活動や消火活動にあたりました。疲労も見えてきた３日目に大阪の消防隊が駆け付けてくれた時には、こんなに早く、遠くから来てくれたんだと非常に胸を打たれました。そこで、我々も負けるわけにはいかないと、山火事の消火活動や救助活動にさらに力が入りました。

平成27年の尾崎半島の林野火災の時は、現場の指揮隊として従事しました。消火活動の中で感じたのは消防団をはじめ、地域の皆さんの協力体制です。船を使用しての資機材の運搬など、消火活動に大きく貢献していただきました。また、県内11の消防本部からも応援に駆けつけていただき、市町村同士の連携の大切さも感じました

令和８年度からは県内10消防本部共同で「いわて消防指令センター」の運用を開始します。これにより、これまでの教訓から学んだ市町村間の応援体制を確立し、大規模災害などでの連携をスムーズに行うこともできます。

災害時に最も重要なのはチームワークです。そのためには、お互いの粗を探すのではなく、得意な分野を引き出しあい、みんなで同じ方向を向いて起きた事案に立ち向かう。そうした姿勢で臨むことが確実な災害への対応につながると感じます。私も現場を指揮する立場として日々の訓練から、みんなが納得して行動ができるよう、声掛けをしています。

消火活動や救急救助が業務の中では花形のように目立ちますが、これらはなるべく起きないほうが、まちにとっては一番いいです。そのため、なるべくそうしたことが起きないように予防する、また起きたとしても被害を最小限にすることが最も重要です。必要な予防を行い、もしも災害が起きた時には署員一丸となって対処できるよう、これからも取り組んでいきます。

～愛する地域を守るために～

胸に秘める熱い炎

私たちの命や財産などを守るため、日々訓練に励む消防隊員。
そんな消防隊員にも年齢や階級、持っている資格などで役割があります。
今回は、それぞれの立場の皆さんに、仕事に込める想いを聞きました。

水難救助隊員

三浦　祐規 さん（26）＝釜石消防署勤務

水難救助と聞いて皆さんが思い浮かべるのは海上保安庁だと思うのですが、我々も通報が入ったらすぐに現場に駆け付けます。優先すべきは人命救助なので、先に着いたほうから調査を開始し、後から連携するような形です。私も消防に入るまでその存在を知りませんでしたが、海がある釜石では水の事故が多いため、自分の仕事の幅を増やす意味でも「潜水士」の資格を取り、水難救助隊に入りました。実際に釣りをしている人が転落して、泳いで救助したこともあります。特に水温が低くなるこの時期は、生命にかかわる危険性が高まるので、1分1秒でも早く駆け付けられるように準備しています。

水難救助隊は釜石を含め、県内に2つの自治体にしかありません。その中でも釜石は月に2回、休日や非番の職員が集まり、実際の海で訓練を行うなど熱心に取り組んでいます。今年も新たに3人が水難救助隊に入隊しました。

もしもの時は我々が駆け付けますが、事故を未然に防ぐためにも、予防や事前の準備が大切です。海や川へ行くときは、ライフジャケットの着用を心掛けることや複数で行くなど、もしもの時のことを考えて行動するようにしましょう。

救急救命士

加藤　里梨（りり） さん（21）＝釜石消防署勤務

一関市出身で、医療ドラマに出てきた救急救命士の姿に憧れ、救命士の資格が取れる専門学校に通っていました。2年生の時に行った病院実習に消防士の方が来ていて、その人から話を聞いていくうちに消防士という仕事に興味を持つようになりました。そこから縁があって釜石に来ることになりました。

現在は、消防学校を卒業し釜石消防署に勤務しています。入庁するまでは、釜石には遊びで1度しか来たことがありませんでしたが、住んでみると気さくな人が多いなと思います。職場の皆さんも初めは規律にあふれたピリピリした感じなのかなと思っていましたが、アットホームな雰囲気で声をかけてくれてうれしいです。まだ現場には行っていませんが、年明けから始まる救命士の研修などを経験し、より現場でもスムーズに動けるように頑張りたいです。

地域の方と交流する機会があったのですが、その時にも「女性の救命士さんが処置をしてくれて安心した」「女性の方だと接しやすかった」とおっしゃっていたので、そういう部分で自分が与えられるものがあるんだなと思いました。これからは、自分もそのように親しみを持たれるような信頼される隊員になりたいです。

警防隊員・予防技術員

藤井　陽良（あきら） さん（31）＝釜石消防署勤務

消防隊員の仕事は常に危険と隣り合わせです。その中でも自分たちは生きて戻らなければなりません。そのため現場では視野を広く持ち、けがをしないことを心掛けています。各現場ですべてが同じ状況ということは無いので、通報の様子を聞いて向かう車内でイメージを膨らませ、現場で臨機応変に対応できるようにしています。人命救助がもちろん最優先ですが、財産が少しでも残ってもらえればという意識でも取り組んでいます。

現在、釜石消防署では市内の幼稚園・保育園を対象に消防の仕事や火事の危険性を伝える「幼年消防クラブ」を組織しています。そこで私は教える立場となり、自分が消防士になったきっかけも幼い頃に見た「消防士のかっこいい姿」だったことを思い出しました。幼年消防クラブの子どもたちにも「火事に気をつけないといけないな」と思ってもらうのと同時に、頭の片隅にでも「小さい時に消防署行ったなあ」と印象に残ってもらえればうれしいです。

今年で入庁から13年目を迎え、上の人と下とをつなぐ立場にもなりました。これからは間にうまく入ってバランスを取り、チームがより良い行動をできるように周りに目を配っていきたいと思います。

通信指令室員

岩﨑　大輔 さん（37）＝釜石大槌地区消防本部勤務

通信指令室は、119番通報を受けたら必要な情報を聞き取り、隊員がすぐに現場に駆け付けられるよう、つなぐことが役割です。

通報者は、気が動転していることがあるので、まずは落ち着かせるように心がけています。聞き取り方も工夫しており、相手が「Yes or No」で答えられるような質問を行うことや、勉強会や本を参考にするなど、円滑に現場につなげられるようにしています。

現場に駆け付ける隊員にも、必要な情報を届けられるように意識しています。私も2年前までは現場にいたので、その時にこういうことを聞ければ動きやすいなと思っていたところを伝えるようにしたり、出動しやすいように指令を出しています。

現在はネットワークが発達した関係で、通報者が場所を詳しく言えないような状態でも、携帯電話のGPSで大体の場所を知り、駆け付けることが可能です。不測の事態に対応できるようになった反面、間違い電話による出動も増えています。仮に間違い電話をかけてしまった場合は無言で切ったりはせず「間違いです」と言ってもらえれば幸いです。そうすることで、本当に救護を必要としている人に迅速に対応できるので、ご理解をお願いします。

私たちも地域を守る一員です

まちの頼れる消防団員

消防隊員と一緒に地域の安心・安全を守っているのが消防団員です。消防団員は、火事や災害などがあったときに駆け付けてくれる頼れる存在です。ここでは熱心に活動されている３人の方にお話を聞いてきました。

祭りでお世話になっている地域に恩返しを

第１分団１部
（東前・新浜町地区）
笹山 将人（まさと） さん

消防団に入団したのは、小さい頃から参加している「東前太神楽」で消防団に入っている人が多く、誘われたことがきっかけです。現在、住んでいる地区は違うのですが、毎月７日に集まり、地域の見回り、消火器や水門の点検などをしています。

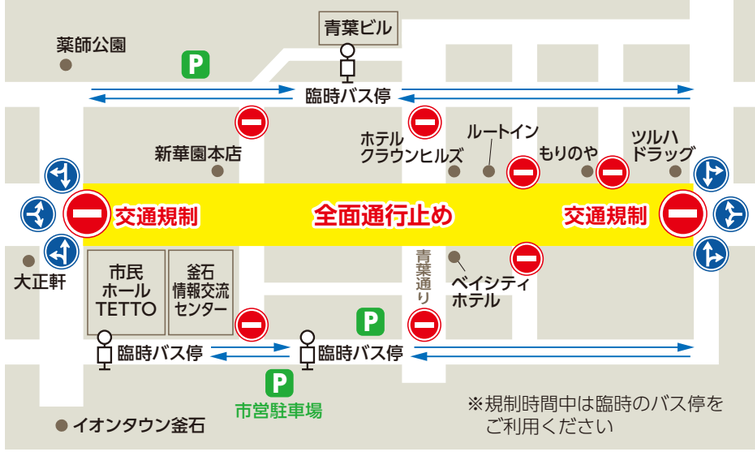
３年前に、初めての火災現場を経験しました。実際の現場は、なかなか思うように体が動かなかったですが、最前線で消火活動を行いました。それまでも消火の演習はしていましたが、実際の火事は全然違うものだなと感じ、改めて火事の恐ろしさや予防の大切さを痛感しました。そこからは防災無線の音にもさらに敏感になりました。

以前住んでいた地域に大人になってから、こうして役に立ててうれしいです。祭りや消防団活動を通して地域を盛り上げるとともに、お世話になっている地域の皆さんに恩返しできるよう、これからも一生懸命、貢献していきます。

東前太神楽でも次代を担う存在として活躍

釜石市消防出初式に伴う交通規制

交通規制　１月14日㈰　９時30分～11時



※規制時間中は臨時のバス停をご利用ください

令和６年 釜石市消防出初式

日時　令和６年１月14日㈰
９時～11時

９時：式典
第一会場（釜石市民ホールTETTO）

10時45分：分列行進
第二会場（ホテルクラウンヒルズ付近）

※荒天時、災害発生時は中止となる場合があります

問い合わせ
市消防課 消防団係
☎22-2525

平穏な日常に感謝するように

第５分団１部（松倉地区）
加藤 りん太郎 さん

祖父母の家が釜石にあったため、住んでいた東京を離れ５年前に移住しました。今では釜石の生活にも慣れ、畑をしたり、海、山、川へ行ったりしています。自然を身近に感じられるのが釜石のいいところです。

消防団には、町内会の集まりで分団長に声を掛けられ、３年前に入団しました。肉体派のイメージがありましたが、入ってみると、アットホームな雰囲気で受け入れてもらいました。幅広い世代の方と趣味の話をしたり、自分が知らない昔の釜石を聞けることも楽しいです。

消防団に入ってからは、１日の終わりに「今日も何もなく終わることができて良かった」と平穏な日常に感謝するようにもなりました。そんな日常を守り、いざという時にスムーズに動けるよう、機器の扱い方や対応などを事前に学び備えていきたいと思います。

普段は陶芸家として活動。
地域や学校のイベントで教えることも

消防団活動が生活の一部に

第７分団１部（栗林地区）
小笠原 千晶 さん

母が消防団に所属している関係で、震災の時から屯所に来るなど、身近なところに消防団がありました。自然と消防団活動やボランティア活動に参加していくうちに、気づいたら消防団に入団していました。今では、消防団活動は生活の一部のようになっていて、集まりがあれば参加しています。

現在は、毎月７がつく日に地域の見回りや点検活動に励んでいます。平成28年には北海道で行われた全国の女性消防団員1,000人以上が集まる研修にも参加しました。他の地域では小学校や保育園などに行って、消防に係る啓発活動を女性消防団がしていると知り「他の地域はこういう活動もしているんだ。釜石でもこういう活動はできるな」と勉強になりました。

アットホームな雰囲気で取り組んでいるので、同世代の方、女性の方も大歓迎です。ぜひ入団ください！

男性団員と変わらず消火訓練にも従事（右）

ありがとうございます

11月27日

初対面の４人が連携し釣り人を救助

表彰を受けた方々（写真左から）
内舘 茂 さん　佐々木 秀雄 さん
片桐 一哉 さん　日高 陽一郎 さん

新浜町の防波堤から海に転落した釣り人を付近にいた４人が連携して救助しました。転落した男性は、迅速な救助により命に別状はありませんでした。４人には釜石海上保安部・釜石大槌地区消防本部からそれぞれ感謝状が送られました。

岩手消防団応援の店 に登録しませんか

まち全体で消防団を応援しよう

地域を守るために活動している消防団員の皆さんに特典や割引などのサービスを提供し、消防団活動を応援する取り組みが始まっています。協力していただける事業者は、市消防課にぜひご連絡ください。

現在の登録事業所

店舗名	サービス内容
レンズセンターコティ	眼鏡一式10％引き（団員）
岩手ダイハツ釜石店	車検・点検の基本料金10％引き
呑み食い処　宗次郎	利用金額の５％引き（団員、同伴者）
料亭　幸楼	１人につき１杯（本）サービス お昼：ウーロン茶　夜：浜千鳥のお銚子

※サービスの利用には制限があります。詳しくは二次元コードからご覧ください

問い合わせ　市消防課　☎22-2525